

# がんセンターNEWS

Aichi Cancer Center News

第46号

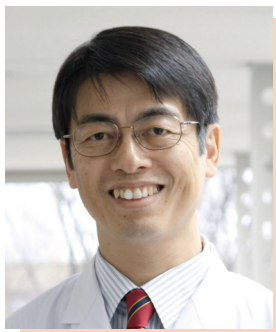
平成25年10月発行

発行

愛知県がんセンター

Tel. 052-762-6111(代)

## 研究所副所長就任あいさつ



愛知県がんセンター研究所副所長

関戸好孝

平成25年8月1日付けて研究所副所長を拝命いたしました分子腫瘍学部部長の関戸好孝と申します。昭和60年に名古屋大学医学部を卒業し、昭和63年より名大大学院医学研究科博士課程に入学すると同時に任意研修生として当センター研究所で4年間、肺がんの遺伝子解析研究に従事させて頂きました。その後、米国テキサス大学留学、名大病院勤務を経て、平成17年より再び当センターで研究を続けさせて頂いております。現在は悪性中皮腫の原因遺伝子の探索と新たな治療法の開発に向けた研究を行っています。

当研究所は全国から研究者が集まり研究レベルは国内外を常にリードして参りました。私自身、研修生の時代から世界のトップレベルの研究を行っている当研究所に所属し、日夜研究に打ち込むことができることを本当に幸せに、かつ誇らしく感じていました。名古屋大学の同僚からはがんセンターで研究できることをとても羨ましく思われていたことを覚えております。

当センターは来年設立50周年を迎えますが、この半世紀に生み出された研究成果や輩出した人材は抜きんできています。革新的な研究論文が多数発表され、世界中のがん研究者から熱い注目を絶えず集めて参りました。さらに、日本のがん研究分野の指導的な立場に就かれた研究者の方も数多くおられます。このような輝かしい歴史は研究所の諸先輩方の努力の結晶と県民の皆様方のご理解・ご支援の賜物であると考えています。今回、副所長職という重責を担うこととなり、光栄であるとともに責任を痛感しております。

がん研究は現在、基礎研究者と臨床家がチームを組むことにより、次々と新しい発見が生み出される時代に入っています。次世代シーケンサーを用いた解析は、個別のがんに起きた遺伝子異常を極めて短時間の内に同定することができ、がんの性格のみならず、診断や治療に直結する情報を与えてくれます。同定された遺伝子異常に対する分子標的治療法は既に臨床現場で実用化されています。しかし、進行がんや転移・再発、また薬剤耐性を獲得したがんに対する治療技術はまだ満足すべき水準にはほど遠く、がん細胞における本態解明に向けてさらに研究を推進していかねばならないと考えています。当研究所では、現在の、そして将来の患者さんにとって有益な新しい予防法や診断・治療法に結びつく基礎研究を是非、行って参りたいと考えております。

今後、中央病院、さらに名古屋大学、名古屋市立大学を始めとする近隣の大学や研究機関との協力関係を一層深め、愛知県がんセンター研究所をさらに発展させていきたいと考えております。皆様どうぞよろしくお願いたします。

## 50周年特別企画 ～がんセンター今昔～

第2回

愛知県がんセンターは来年、設立50周年を迎えます。この節目にあたり、センターOBの先生方に在職当時のエピソードとセンターのこれからについて語っていただきます。第2回は富永祐民名誉総長です。

私は1977年3月に研究所の疫学部長に就任し、2003年3月に定年退職しました。この間1990年4月から2001年3月まで研究所長を務め、定年までの最後の2年間は総長を務めました。研究所は初代の赤崎兼義所長が全国から優れた研究者を集められました。研究所の部長選考は選考委員が候補者の研究業績を調べた上で意見を述べ、所長が最終判断を下しました。私が部長になった頃も北は北大から、南は九大まで、全国各地から研究者が集まり、切磋琢磨しながら研究を行っていました。研究員から室長への昇任も年功序列ではなく、研究業績が重視されました。この伝統は現在も引き継がれています。

研究所長時代に最も苦労したことは、多額の予算を要する研究所の改築にあたり県の財政が極端に悪化しており、「研究所はどのような研究をやっているのかさっぱりわからない。研究所は役に立つのか」と言った県議会や県庁幹部の厳しい批判にこたえることでした。その方策の一つとして、研究所の研究成果をわかりやすく紹介したニュースレターを発刊することにしました。この計画を当時の病院長の大野竜三先生に相談しましたところ、病院も是非一緒にやりたいといとのことで、現在のようながんセンター全体のニュースレターが生まれました。私は病院と研究所の連携を重視し、組織改革も重視しましたが、誌面の制約により、これらについては別の機会に譲りたいと思います。



愛知県がんセンター名誉総長

富永 祐民

専門分野：がんの疫学と予防  
 賞等受賞：WHOゴールドメダル（1989）  
 中日文化賞（2003）  
 環境大臣表彰（2007）  
 瑞宝小受章（2010）  
 東海テレビ文化賞（2012）

## 学んだ! 体験した! DNA解析による体質診断

平成25年8月2日（金曜日）に、愛知県がんセンター研究所の主催で、毎年恒例となっている「高校生向け基礎実験体験講座」を開催しました。今年は「DNAで体質を知ろう」というテーマです。口腔粘膜からDNAを抽出して「お酒を飲める体質か飲めない体質か」を決める遺伝子のタイプを決める実験に、東海地区の計16名の高校生の皆さんが挑戦しました。初めて触る「ピペットマン」や「微量高速遠心機」などの実験器具を使いこなして、みごと全員が実験に成功しました。また昼休みに実際のラボ(実験室)を訪問したり、自らが被験者となって「アルコールパッチテスト」による体質診断を体験したりと盛りだくさんのメニューをこなしました。次いで9月1日（日曜日）には、「がんセンター公開講座」を開催し、おかげさまで200名を超える皆様のご参加をいただきました。あわせて研究所の研究内容を紹介する「パネル展示」、および研究員の案内で少人数のグループごとに研究所内部を見学する「研究所ツアー」も開催しましたが、ツアーには計50名の皆様に参加され、好評をいただきました。こうした催しの案内は今後も愛知県がんセンターのホームページに随時掲載しますので、興味のある方は是非ご覧ください。



高校生向け基礎実験体験講座当日の様子



がんセンター公開講座 研究所パネル展示の様子

## センター探訪 ②

# 相談支援室

愛知県がんセンターを支える日頃目立ちにくい部署、縁の下の力持ちを紹介します。第2回は相談支援室です。

### 中央病院の相談支援室ってどんなところ？ Q&Aでご紹介させていただきます。

#### ❖ 相談支援室にはどのような相談があるのですか。

転院の相談（緩和ケア病棟を含む）、在宅生活への移行、介護保険、身体障害者手帳等の福祉制度について、医療費等の経済的問題に関すること、病気の不安、治療の不安、また、セカンドオピニオンについてのご相談などがあります。

相談は、電話や面談で行っています。入院患者さんからの相談は、相談員が病棟へ伺って行くこともあります。

#### ❖ 相談の他にどのような利用ができますか。

患者さんやご家族向けのがんに関するパンフレットやさまざまなイベント等の案内チラシを設置しています。また、ピアサポーター（がん治療経験者）の相談に関する情報提供などもしています。

希望される方には、「タオル帽子」の配布を行っています。

#### ❖ 相談支援室の相談員にはどのような職種の方がいるのですか。

医療ソーシャルワーカー（MSW）3人、看護師4人で合計7人です。それぞれの職種の専門性を生かし、MSWは主に福祉的な相談を、看護師は療養に関する相談を中心にお受けしています。

#### ❖ 誰でも相談できるのですか。

当院の患者さん・ご家族だけでなく、「心配なことがあるが、病院にかかった方がいいでしょうか」「〇〇病院にかかっているが、がんセンターの先生の意見が聞きたい。どうしたらよいでしょうか。」等といった、未受診の方や他院におかかりの方からの相談もお受けしています。

なお、相談内容によっては適切な窓口をご紹介させていただくことがあります。また、患者さん個人の診療に直接関わる相談には応じられない場合がありますのでご了承ください。



### 就労に関する相談の開設

トピックス①

がん治療と仕事の両立でお悩みの方に向け、社会保険労務士による就労に関する相談日の開設に向けて準備中です。準備が整い次第、お知らせいたします。



### 新相談支援センターの設置

トピックス②

今年度中には、当院の「医療連携室」「退院調整室」「相談支援室」が一つの組織となり、新たに、外来化学療法センター跡地に「地域医療連携・相談支援センター」として発足予定で、現在準備中です。



相談時間：月～金曜日（祝日・年末年始を除く） 9～12時及び13～16時  
場所：病院棟3階 料金：無料

## 医療事故防止に対する取り組みを進めています

がんセンター中央病院では、県立病院における医療事故の発生防止対策の検討及び医療事故発生時の適切な対応方法等を協議し、情報の共有化を図ることで、県立の病院全体で医療事故防止に取り組むことを目的とする愛知県立病院医療事故防止対策委員会を8月5日に開催しました。

昨年度までは病院事業庁管理課が開催していましたが、今年度から、新しく設置されましたがんセンター中央病院医療安全管理部が事務局となり開催しました。参加者はがんセンター中央病院167名、病院事業庁、他の県立病院等134名計301名でした。

医療事故、ヒヤリハット発生状況、前回委員会後の事故防止策実施状況の報告に続き、がんセンター中央病院の「左頸部リンパ節腫大で抗凝固薬内服中の患者に超音波検査担当医が同意書の確認なく、穿刺・吸引細胞診を行い血腫を形成した事例」を初め、あいち小児保健医療総合センター、心身障害者コロニー中央病院での事例、計3事例でパネルディスカッションを行い、幾つかの改善提案がされました。医師、弁護士、薬剤師、看護師といった様々な職種の委員の先生方からいただいた貴重な意見を実施するよう心がけ、今後も継続して医療事故防止に取り組んでいきます。



3事例をパネルディスカッションしました。



コーディネーターは、がんセンター中央病院の長谷川副院長が務めました。

## 病院スタッフの紹介

### 中央病院 ～臨床検査部～

検査部（普段は検査室と呼ばれます）の29名の技師は、それぞれ専門の担当部署で検査を行っています。採血を行い、血液中の成分の測定をしたり、心電図・肺機能・エコーや、体内にいる細菌の種類も決定も行います。また尿や痰等に出た細胞、手術等で採取された組織は、標本にし病理医の診断に回します。検査結果は、患者さんに病気がないか、手術や治療に耐えられるか、どのような治療が考えられるか等を知る上でとても重要です。正確で再現性のある結果をより早く伝え、よりよい治療に役立てられるよう皆で努力しています。



検体検査室；採血後の血液は、分析機にかけられ通常1～1.5時間でデータ送信しますが、緊急を要する結果は、医師に直接電話連絡を行うなどチーム医療を心がけています。

# 人工キラーT細胞を用いた近未来のがん免疫療法の研究について

## 研究所 ～腫瘍免疫学部～



腫瘍免疫学部長  
葛島 清隆

キラーT細胞の働きを利用するがん免疫療法の研究は、世界中で活発に実施されています。適切に行えば高い効果の得られる近未来の治療法として、人工的にキラーT細胞を作製する方法があります。図1にその概略を示します。まず、優秀な機能を持ったキラーT細胞からエッセンスとなる分子「T細胞抗原受容体(TCR)」の遺伝子を取り出します。この遺伝子を患者さんから採血したリンパ球に導入して「人工キラーT細胞」を作製します。ニューヨークエソ1というがん抗原を認識する人工キラーT細胞を用いて、悪性黒色腫や肉腫を治療した海外の報告があります。わが国でも、メイジA4やWT1などのがん抗原（がんの目印）を認識する人工キラーT細胞を用いた臨床研究が始まりつつあります。

私たちは、テロメレイスというがん抗原を認識する人工キラーT細胞を作製し、いろいろながんに対する免疫療法の基盤的な研究をしています（図2）。この人工キラーT細胞は成人型T細胞白血病に対して治療効果のある可能性が、共同研究者のグループによって最近誌上報告されました（Miyazaki Y, 他。米国血液学会誌2013年6月号）。

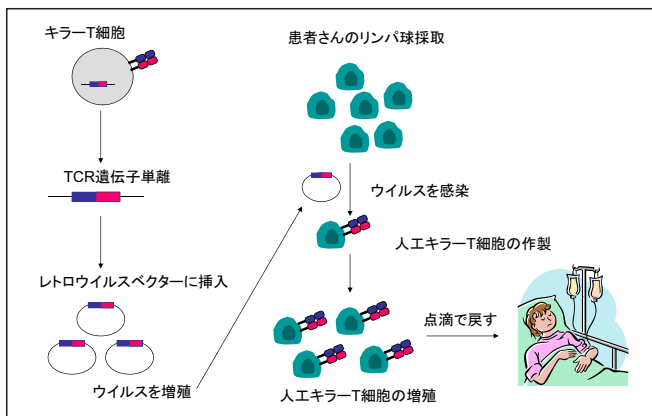


図1 人工キラーT細胞を用いたがん免疫治療法の概略

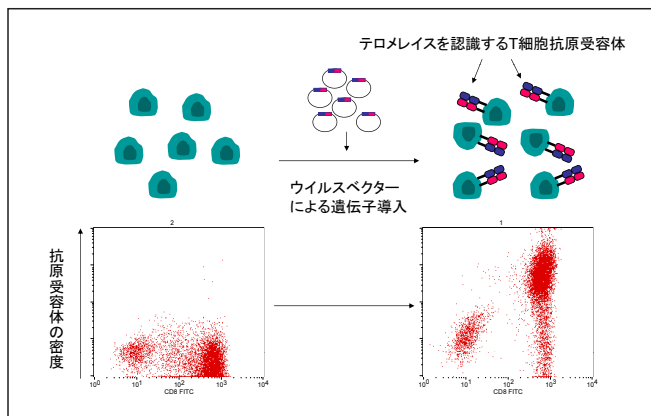


図2 がん抗原テロメレイスを認識する人工キラーT細胞の作製

## 研究員の紹介

### 研究所 ～中央実験室～

中央実験室では、独自の研究を行うとともに、研究所内の各種設備・備品の維持管理、共同利用機器の管理運用および放射性同位元素(RI)使用施設の安全管理など、研究活動や臨床研究が円滑かつ効率的に進むよう、様々な技術的支援を行っています。

写真左から：稲垣昌樹室長、  
組本博司主任研究員、  
箕浦靖主任専門員、  
西川安廣非常勤嘱託員、  
篠原佳美非常勤嘱託員、  
中村普武非常勤嘱託員



## 遺伝性乳がんへの対応

中央病院 ～乳腺科部～

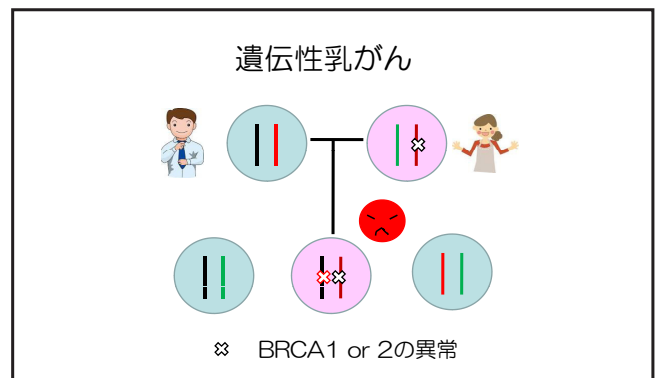
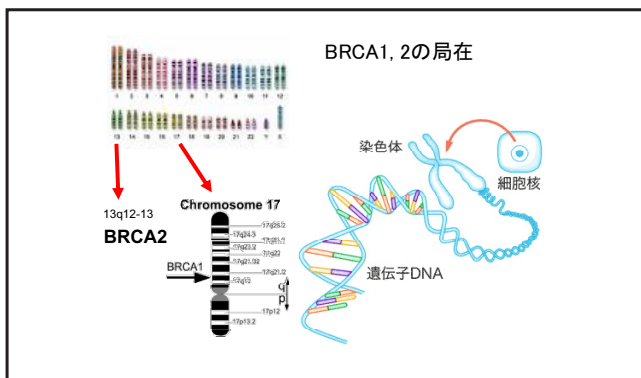
海外の有名女優の告白でセンセーショナルに報道された乳房予防切除、彼女はなぜ予防切除を選択したのでしょうか。生まれつきの遺伝子（原因遺伝子）異常によって高頻度に発生する病気がいくつか知られ、遺伝性乳がんではBRCA1, BRCA2の2つが原因遺伝子として同定されています。BRCA1 or 2遺伝子異常が見つかった場合、最大で87%の確立で乳がんが発生します。乳がん以外にも高頻度（40%程度）に卵巣がんも発生します。さらに、すい臓がんや前立腺がんの発生が高まることもわかっています。彼女は母親が乳がん で亡くなっていて、遺伝子検査を受けたところBRCA1の異常が見つかった為、手術を受ける決心をしたのです。

これは海外だけの話ではなく日本でも同じです。そこで我々は以前より準備を進め、今回家族歴のある乳癌患者さんの不安に対応するために、**遺伝カウンセリングを本年6月から開始いたしました。当院で乳がん、卵巣がん で治療を受けられた、あるいはこれから受ける方が対象です。** 遺伝子カウンセリングを受けていただいた後、希望者には遺伝子検査を受けていただくことが可能ですが、自費で約20万の費用がかかります。もし遺伝子異常が発見された場合の対応は、海外のように予防的切除は一般的ではありません。早期発見のためには乳房MRIによる検診が有用と言われています。今後乳腺科では、まず臨床研究として、次に先進医療への申請を行い、リスク低減乳房切除・卵巣卵管切除術を行っていく予定にしています。詳細は、がんセンターへ通院中の方は主治医にお問い合わせください。



副院長兼乳腺科部長

岩田 広治

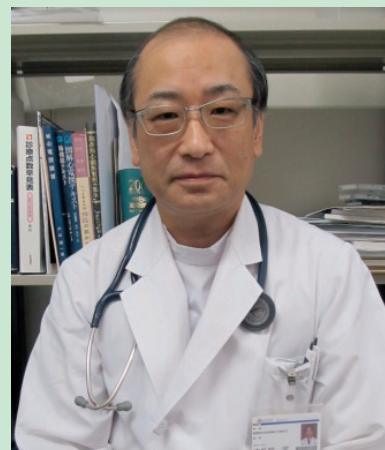


## 診療医の紹介

### 中央病院 ～循環器科部～

循環器科ではがんに伴う複雑な心臓病に豊富な経験を持つ医師が治療にあたっております。

★当科ではがん漢方治療も行っております。がん漢方は厚労省からの支援も始まりましたが、取り扱い施設が少ないのが現状です。基本的ながん漢方を希望される方はどなたでも診療させていただきます。受診前に主治医にご相談下さると助かります。



循環器科部長 波多野 潔

## 肺がんに対する完全胸腔鏡下肺葉切除・区域切除

+縦隔リンパ節廓清の積極的適応拡大へ 中央病院 ～呼吸器外科部～

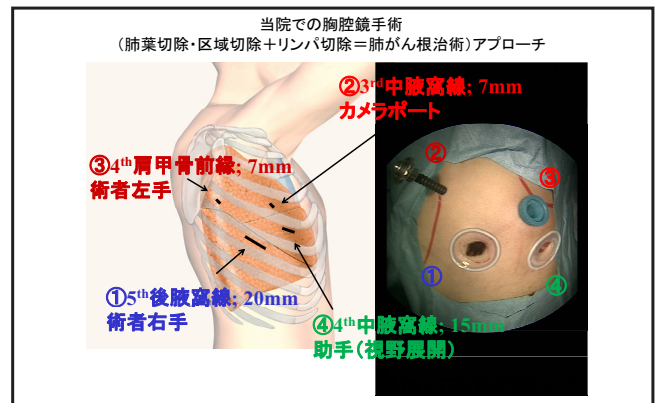
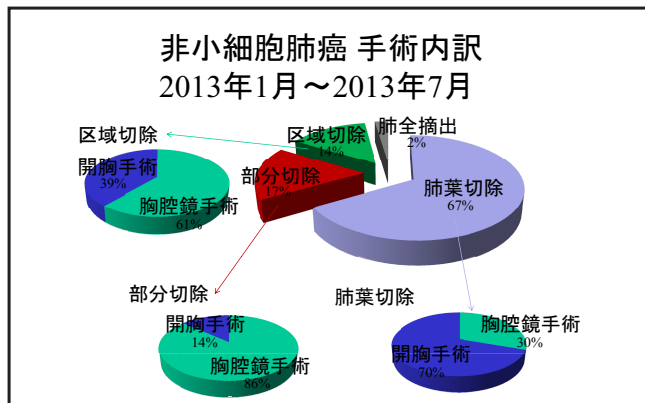


呼吸器外科部長  
坂尾 幸則

近年、外科領域では低侵襲手術としての鏡視下手術のニーズが高まっています。私たちも昨年  
から肺がんや縦隔腫瘍に対する完全胸腔鏡下手術の適応を積極的に拡大しています。完全胸腔鏡  
下手術では、人差し指大が最大（最終的に肺を取り出すときに3cm程度に拡張）である3ないし  
4箇所皮膚切開で、胸の中をTVモニターに映し出して手術を行います。鏡視下手術にも種々  
の方法がありますが、①小さな傷で胸壁への負担をさげ、②拡大したモニター視で安全に、③開  
胸同等の手術を行う、ことが私たちのコンセプトです。主に早期（IA）肺がんや転移腫瘍、縦隔  
腫瘍が良い適応です。

さて、肺は肝臓などと違い再生されることはありませんので、手術に際して肺機能を温存する  
ことも重要です。そのような目的で行う手術が縮小手術（区域切除や部分切除）です。しかし、  
現在肺がんの標準手術は肺葉切除術（大きく切除）ですので、転移・浸潤能力がまだ備わってい  
ないと考えられる時期の肺癌に限りその適応としています。また、区域切除は比較的難易度の  
高い手術ですので開胸で行うことが多いのですが、私たちは完全胸腔鏡下で積極的に区域切除を  
行い良好な結果を得ています。

鏡視下手術に限らず、患者さんにとってより恩恵の大きいと考えられる医療・外科治療を提供  
するための情報収集や技術向上に今後も尚一層努めてまいります。



## 診療医の紹介

### 中央病院 ～緩和ケア部～

本院の緩和ケアチームは、右記の4人をコアメンバーとして、各病棟に一名ずつの緩和ケア・リンクナース、薬剤師、ソーシャルワーカー、それに各診療科独自の緩和ケアを実践している医師などから成り立っています。本格始動から既に8年目となり、院内でも定着した実践になっています。特に、病棟看護師からのフリーアクセス・システムは、「ちょっとだけ教えて欲しいんだけど」という相談から、公言できない問題まで、緩和ケアの敷居を低くするのに、大変役立つと評判です。今後とも、使える、さわやかな緩和ケアチームであり続けたいと思いますし、準備中の緩和ケアセンターができた際には、地域との連携がさらに密になることを願っております。



後列左から、柴田亜弥子（がん看護専門看護師）、小森康永部長（精神腫瘍医）  
前列左から、下山理史医長（緩和ケア医）、新田都子（がん性疼痛看護認定看護師）

## 公開講座のお知らせ

日時：平成25年11月24日(日) 14:00~16:00(開場 13:30) 無料・事前申込不要

場所：愛知芸術文化センター12階 アートスペースA

題目：「がんに対する低侵襲手術 ～手術による傷を小さくすることで体の負担を減らす努力～」

1. 呼吸器外科学の進歩 ～肺がん・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡手術～
2. きずの小さい、からだに優しい、胃がん・消化器がん腹腔鏡手術
3. 泌尿器科領域における、低侵襲手術としての腹腔鏡手術、ミニマム創手術の実際

## 医療連携室のご案内

対応時間	月曜日～金曜日 午前9時00分～午後7時00分
電話番号	052-764-9892 (直通)
FAX	052-764-9897 (24時間稼働しております。)
ホームページ	<a href="http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/">http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/hosp/</a> 中央病院トップページ右手にある「医療連携」のバナーをクリックしてください。 利用の手引や様式など、詳細を掲載しております。

## 外来診療案内

受付時間	午前8時30分～11時30分 (自動再来受付機による受付は午前8時からできます。)
休診日	土・日・祝日、年末年始
診療科	消化器内科、呼吸器内科、循環器科、血液・細胞療法科、薬物療法科、頭頸部外科、形成外科、呼吸器外科、乳腺科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、眼科、放射線診断・IVR科、放射線治療科、緩和ケア科 (精神腫瘍科・リンパ浮腫外来・ペインクリニック)、専門外来 (禁煙外来・糖尿病内科)
外来診療担当一覧	毎月1回、月初めに更新しています。詳しくはホームページをご覧ください。
休診情報	お電話またはホームページでご確認ください。

※再診予約制：診察券をお持ちの方は、診察予約をしてください。052-764-2911(直通) 午前9時～午後5時(土・日・祝・年末年始を除く)

※セカンドオピニオン外来は、全科で対応しています。(完全予約制・自由診療)

※精神腫瘍科及び専門外来は、予約のみの対応です。

## 交通のご案内

## ★公共交通機関のご案内

地下鉄利用 名城線「自由ヶ丘駅」2番出口から徒歩7分

市バス利用 基幹2系統・星丘11系統「千種台中学校」下車徒歩4分

## ★車でのアクセスのご案内

## ◎一般道路

本山交差点から北へ約10分、平和公園の北西

## ◎高速道路

東名高速道路「名古屋IC」から西へ約15分

名古屋高速「四谷出口」から北へ約10分

※詳しくはホームページをご参照ください。



愛知県がんセンター Tel.(052)762-6111 Fax.(052)764-2963

〒464-8681 名古屋市千種区鹿子殿1番1号 ホームページ <http://www.pref.aichi.jp/cancer-center/>

愛知県がんセンター

検索